

3 自ら応募した者

(秋田市農業委員会の委員候補者の推薦および募集に関する要綱第3条第3項)

番号1

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
石井 重浩	男	65	無職	S60.3 S60.4 H27.3 H27.4 R7.4	早稲田大学・法学部卒業 株式会社秋田銀行入行 計10か店で勤務し、3か店で支店長を務めた 株式会社秋田銀行退職(役職定年) 株式会社秋田魁新報社入社 経営企画室・部長として勤務 株式会社秋田魁新報社退社	経営していない		認定を受けていない	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由) 高市政権による農業構造の大転換を迎え、本市の農業も今、かつてない変革の時を歩むことになると思われます。農地の大区画化や共同利用施設の再編は、生産性向上への大きなチャンスである一方、個々の農家にとっては従来の経営手法からの脱却を迫られる、死活的な挑戦でもあります。 私は銀行員として30年間、多種多様な企業の経営支援に奔走してきました。そこで培った「財務・経営分析力」と「課題解決のノウハウ」を、今こそ故郷の農業維持のために捧げたいと考えております。激動の時代において、農家の皆様の生活を守り抜き、農地の集積・集約化、そして遊休農地解消という難題に、プロの視点から主体的に貢献する決意です。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 本市は米どころとして「サキホコレ」などのブランド化に成功している一方、実質的な減反政策や担い手の高齢化という深刻な構造的課題に直面しています。特に60～70代が主力という現状は、数年後の農業基盤崩壊を招きかねない喫緊の事態であると強く認識しております。 私は、この現状をただの「課題」として捉えるのではなく、外部資本や若手参入を促すための「経営環境の整備」が不可欠であると考えています。地域の宝である農地を次世代へ確実に引き継ぐため、情勢を的確に分析し、実効性のある対策を模索し続ける所存です。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 私には「農家の原体験」と「ビジネスの専門性」という、他にないハイブリッドな強みがあります。農家の長男として親の稲作を長年手伝い、その過酷さと尊さを肌で知る一方で、大学では法学を修め、「農地法」をはじめとする法的・制度的側面からアプローチできる素養を磨いてきました。また、銀行員として培った「事業の持続性を見極める眼」は農地の権利移動や集約化の適正な判断において、大きな強みになると確信しております。 現場の痛みがわかるからこそ、制度を画一的に適用するのではなく、農家の皆様に寄り添ったアドバイスができると自負しております。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動) 転勤等の都合により、これまでは所有する田を農地中間管理機構へ委託してまいりましたが、現在は自らの手で畑を耕し、土に触れる生活を実践しております。今後は農業委員の活動を通じ、地域のコミュニティの一員として、また現場の実践者として、これまで以上に深く地域農業の振興にコミットしていく意向です。</p>									

番号2

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
石川 和徳	男	77	無職	S42.3 S42.4 H15.7 H15.8 H21.5 H21.6 H24.12 H25.1 H29.6	秋田商業高校卒業 株式会社秋田銀行入行 増田支店 本店営業部等13部店配属 株式会社秋田銀行退職 株式会社秋田ジェーシービーカード入社 株式会社秋田ジェーシービーカード退社 株式会社秋田銀行シニア嘱託雇用 株式会社秋田銀行退職 株式会社秋田銀行パートタイマー雇用 株式会社秋田銀行退職	経営していない		認定を受けていない	応募している
応募理由等									
<p>(応募理由) 後期高齢者と言われる年齢に達し、少しでもお役に立ち、社会とつながっていたい、と常々思っておりました。そのような時に「広報あきた」で農業委員会等を募集、という記事に触れました。 農業の経験はありませんが、これまでの勤務経験を生かして、農業の発展や農地の活用等に役立つことがあるのではないかと思います、応募を決断しました。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 「広報あきた」、新聞およびテレビで報道される程度の認識・理解であります。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 農業に関する専門的な知識や経験は有していませんが、前職の経験や知識を活かせる場がある、と思っております。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動) 短期間ではありますが、秋田厚生医療センターで患者さんの検査受付等のボランティアを行いました。 令和2年9月に開始しましたが、コロナウイルス感染の恐れがあるとして、病院の方針により翌年2月に活動を中止しました。その後、活動が再開されたことなく、ボランティア組織そのものが解散されました。 5か月間の活動でしたが、とても有意義だったと思っております。</p>									

番号 3

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
鎌田 悦雄	男	76	農業	H24.1～現在 H26.12～H27.7 H26.4～現在 H17～現在 H29.7～R2.7 R2.7～現在	秋田市上北手猿田土地改良区理事長 秋田市農業委員（改良区推薦） 大山田ゆいの会代表（多面的機能事業） 秋田市認定農業者 秋田市農地利用最適化推進委員 秋田市農業委員	稲作	6ha	認定を受けている	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由) 条件不利値への支援等、耕作放棄防止への助言・支援が必要。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 都市型農業として、農地と街のすみ分けが必要。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 土地改良区の役員として長年の知識を役立たせたい。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動) 農村地域の町内会長として8年間の実績。平成26年から多面的支払交付金事業の代表として現在に至る。</p>									

番号 4

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
伊藤 哲哉	男	69	秋田市の計年度任用職員	S55.3 S55.4 H16.6 H19.4 H21.7 H23.7 H25.6 H28.4 R2.4～R8.3	早稲田大学卒業 土崎信用金庫入庫 秋田信用金庫常勤理事総合企画部長 秋田信用金庫常勤理事経営管理部長 秋田信用金庫常勤理事監査室長 秋田信用金庫常勤監事 株式会社あきしんビジネス代表取締役社長 秋田市産業振興部産業企画課嘱託（アグリビジネス・インキュベーションマネージャー） 秋田市産業振興部産業企画課会計年度任用職員（アグリビジネス・インキュベーションマネージャー）	経営していない		認定を受けていない	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由) 農業委員会の活動を通じて、農業者や地域住民と地域農業の現状に関する意見交換をすることにより、農業者と地域社会との橋渡し役を果たし、またその活動によって得た内容を農業政策や農業振興策を進めるための活動に反映させ、地域の農業経営をサポートし持続可能な農業の実現に貢献したいとの思いから応募いたしました。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 高齢化の進行と後継者不足を大きな要因とし農家数が減少しており、また、農地の放棄、宅地化等による転用、高齢化による離農等により耕作面積も減少しています。 これらは単なる世帯数や面積の問題だけではなく、地域農業の持続性や農村コミュニティの存続に関わる根本的な課題であり、このままでは将来の展望が描けなくなる可能性もあると危惧しております。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 地元の信用金庫および秋田市産業企画課アグリビジネス・インキュベーションマネージャーとして勤務時農商工連携・6次化推進のため訪問した多くの農業者と折衝してきた豊富な経験と人的ネットワークを有しています。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動) 地元の信用金庫において、習得したビジネスに必要な事業承継等の経営知識を活用し、様々な顧客と折衝しコンサルタントとしてアドバイスを行ってまいりました。また、アグリビジネス・インキュベーションマネージャーとして農商工連携・6次化推進のため、1次から3次事業者へ毎年平均180回以上訪問、情報収集、マッチングやフォローアップを図り、事業承継や農商工連携において地域の活性化を図ってまいりました。</p>									

番号 5

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
佐藤 きよ子	女	68	無職	S54. 4 S56. 4 H1. 4 H6. 4 H8. 4 H16. 4 H19. 4 H21. 4 H24. 4 H26. 4 H31. 4 R6. 7～現在	秋田市役所入所 市民課・主事 民生課・主事 土崎支所・主事 市立病院・主査 水道局・主査 土崎支所・主査 国体局競技課・主査 市民課・主席主査 観光物産課・副参事 農業委員会事務局・参事 北部市民サービスセンター・主査（再任用） 秋田市農業委員会・農業委員	経営していない		認定を受けていない	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由)</p> <p>秋田市農業委員会を最終に退職後、本市の農業振興の発展の為に農業委員活動に携わる事を強く希望し、3年前農業委員に応募し任命頂きましてから今日まで、中立農業委員として果たせる役割に誠意をもって取り組んでまいりました。</p> <p>1期目では数々の研修や実践による経験で農業委員としての基本的役割を深く理解し、2期目では更にこの3年間で学んできた知識や経験および女性農業委員としての立場を生かしながら、本市の農業の具体的な課題や問題点に積極的に向き合うとともに、秋田市農業委員会活動に協力させていただきたく、2期目再任を希望し、応募させていただきます。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度)</p> <p>私が農業委員会事務局職員として在職した平成26年から平成31年は、農業委員会法の改正に伴う農地利用の最適化の推進に向けた、かつてない政府の大きな改革の時期でした。農業委員は審議の意思決定、推進委員は主に現場活動を担う役割分担のもと、農地の集積・集約、遊休農地の発生防止と解消、担い手の育成に向け新たな活動を展開しながら現在に至りますが、経営者の高齢化や担い手不足による経営圧迫、熊の出没やイノシシ等による鳥獣被害の多発、農地集約化の遅延など、いまだに深刻な課題を抱えているという現実があります。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験)</p> <p>農業委員の基本理念の3本柱である「農地の集積・集約化」、「遊休農地の発生防止と解消」、「新規参入の促進」の確立に向け、今ある農地を未来も農地として残していくために、この3年間、沢山の研修を受ける事により様々な知識を身に付け、また研修会での秋田県内外の様々な事例を参考にしながら、それを秋田市の農業事情に置き換え、実践に役立てながら、地域の諸問題に対応してきました。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動)</p> <p>1期目の3年間は、学びと実践を第一に考え、受けられる研修は全て受講し、その際、発表された全国の事例を秋田市の農業事情に置き換え、実際に地域で発生した諸問題（遊休農地の発生解消の為、土地の持ち主の調査と交渉、新規就農者と受け入れの可能性のある法人との結びつけ等）に、担当地域の農業委員と共に、中立委員の立場と女性農業委員の特色を生かしながら取り組んでまいりました。また、女性農業委員独自の活動として、園芸振興センターの新規就農希望者と就農希望地域の農業委員との仲介や地元農業の現状を学んで頂くため、定期的に意見交換会、懇談会を実施してきました。</p> <p>女性農業委員が主体となり、フードドライブ活動にも協力し、支援NPO法人に各地域から定期的に「子ども食堂」等で使用して頂く米を提供いただく活動も継続してまいりました。</p>									

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
市川 彪雅	男	20	大学生・陸上自衛隊サイバー予備自衛官補(非常勤)	R6.4 R6.10 R6.11 R7.3 R7.4 R7.5 R7.6 R8.1 R8.3	秋田大学理工学部生命科学科 入学 秋田大学国際課 留学生チューター採用 秋田県消費生活審議会 委員 就任 小学生プログラミング講座 ボランティア講師 秋田県秋田東警察署協議会 委員 就任 秋田県警察 サイバー防犯ボランティア 任命 デジタル庁 デジタル推進員 任命 秋田大学北光会 学生幹事 秋田市消防本部 学生消防団員 任命 消費者庁 食品ロス削減推進サポーター 登録	経営していない		認定を受けていない	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由)</p> <p>私が農業委員に応募した理由は、秋田大学に通う現役大学生という独自の視点から愛する秋田市の農業に関わりたと思ったからです。</p> <p>2月19日の説明会にて、これまでの委員の多くが50～60代であり、最年少でも40代であると伺いました。秋田県内の大学で学ぶ20代の若者が、次世代の当事者として議論に加わることで、秋田市農業の未来に少しでも貢献できるのではないかと思います。</p> <p>将来、私自身も農業に携わりたいたいと考えており、活動を通じて本市の農業をより深く学びたいという思いもあります。</p> <p>私は、米農家の祖父母のもとで幼少期から農作業を手伝い、農業を肌で感じて育ってきました。祖父は、農家という職に誇りを持ちつつも、販売価格が割に合わない、体の負担が大きい等、色々な負担を抱えていました。農家の方々の悩みを理解しているからこそ、理想論ではなく、現場に寄り添った提言ができると考えています。</p> <p>これまでの審議会委員の公職経験や、幼少期からの農業経験を生かし、若者の視点とITの知見を掛け合わせ、本市の深刻な後継者不足解消に全力を尽くす所存です。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度)</p> <p>秋田市は全国有数の米どころですが、冬の積雪や日本一短い日照時間といった厳しい自然条件、加速する人口減少と後継者不足により、農地の維持そのものが困難な状況です。さらに近年のクマによる食害は、農業をビジネスとして経営しようとする前向きな気持ちも削いでしまうと思います。</p> <p>IoTやDXを活用したスマート農業で負担が減らせると思いますが、高齢化が進む現場では、最新技術へのハードルが高いのが実情です。実際に、祖父も肥料の自動散布機を導入した際に、操作に慣れるまでに苦労していたのを覚えています。単なる導入に留まらず、誰にでも使いやすいようにし、スマート農業のハードルを下げる必要があると考えます。</p> <p>認定農業者への農地集積や遊休農地防止を進める上でも、厳しい気候条件に負けない持続可能な生産体制を構築することが、最重要課題であると認識しています。</p> <p>私は、自身のデジタル庁デジタル推進委員としての知見を活かし、現場の農家の方々が「これなら使ってみよう」と思えるよう、ハードルを下げるために工夫をしたいと考えています。最新の技術を、単なる「難しい機械」としてではなく、過酷な農作業を支える「頼れる道具」として浸透させていくことで、秋田市の豊かな農地を次世代へ確実に繋いでいくための力になりたいです。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験)</p> <p>農業委員として活動する上で、私には農業経験×生命科学×ITの3つの強みがあります。</p> <p>まず何より、祖父母の家で苗箱作りから田植え、稲刈り、もみすりまで、幼い頃から一通りの稲作を手伝ってきた農業経験があります。農作業の本当の大変さを知っているからこそ、委員として農家の方々の立場に立った発言ができると確信しています。</p> <p>また、大学では生命科学を専攻し「毒物劇物取扱責任者」の資格も取得しています。農薬の適正管理について助言できるほか、消費者庁食品ロス削減推進サポーターとして、生産段階からのロス削減という視点も持ち合わせています。さらに、デジタル庁デジタル推進委員としての知見を活かし、ドローンやセンサーを用いた作業の効率化・負担軽減の具体的な提案も可能です。</p> <p>こうした自身の強みを活かす一方で、農業委員会が担う広範な法制度や実務については、正直、まだまだ学ぶべきことが多いと感じています。任命後も、先輩委員の方々から現場の知恵や経験を積極的に吸収し、本市の農業発展のために自らも日々研鑽を積み、一生懸命に勉強し続けます。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動)</p> <p>私はこれまで、多方面から秋田の地域社会を支える活動に携わってきました。</p> <p>秋田市内の活動においては、秋田東警察署協議会委員として地域の治安維持に関する提言を行い、現在は秋田市学生消防団員として、地域の防災活動の最前線に立っています。さらに、令和8年4月からは「秋田市地球温暖化防止活動推進員」に任命されており、地球温暖化対策や省エネに関する活動を通じて、持続可能な地域づくりに貢献していく予定です。</p> <p>また、秋田県や全国的な活動では、秋田県消費生活審議会委員やサイバー防犯ボランティアを務め、国レベル(デジタル庁・消費者庁)の政策を地域問題へ落とし込み、解決に奮闘するなど市内や県内に貢献してまいりました。</p> <p>これらの活動を通じて、幅広い世代や専門分野の方々と建設的な対話を行う経験を豊富に積んできました。行政組織の仕組みを理解した上で、農業委員会の円滑な運営に一委員としての責務を果たす所存です。</p> <p>しかしながら、農業に関しては、現場の課題や専門的な制度など、まだまだ吸収していかなければならないことが多くあると自覚しています。そして、同世代の若者に向けて秋田市の農業の魅力を積極的に広めていきたいと考えています。</p>									

番号 7

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
藤島 岳洋	男	56	農業	H30～現在 H26～R6	農地利用最適化推進委員（3期9年） 黒沼農地維持活動組織 役員（多面的機能支払）	水稲 ネギ	2ha 30a	認定を受けている	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由) 私は秋田市農地利用最適化推進委員を3期9年務めて参りました。その活動の中で地域農業の激変を肌で感じ、農業を取り巻く環境に危機感を覚えております。農業委員として活動し、地域農業の発展の一助になればと思い応募しました。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 農地利用最適化推進委員の活動を通して、要項で求める主な業務をほぼ経験してきた。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 農地利用最適化推進委員3期9年務める。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年1回以上の農地パトロールの実施 ・当該地区における人・農地プランの更新作業 ・当該地区の農地の見回り、農業者とのコミュニケーション（状況把握のため） 									

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者であるか否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
黒丸 彰徳	男	70	無職	S55.3 S55.4～S60.3 H60.4～H1.3 H1.4～H6.3 H6.4～H9.3 H9.4～H13.3 H13.4～H16.3 H16.4～H19.3 H19.4～H22.3 H22.4～H22.3 H22.4～H23.3 H23.4～H26.3 H26.4～H28.3 H28.4～R2.3 R2.4～R6.3	専修大学法学部法律学科卒業 秋田県庁入庁 農政部雄勝農林事務所土地改良課管理担当主事 農政部農業水利課指導担当 主事 秋田県議会事務局議事課議事係・委員会係 主事・主任 福祉保健部北秋田福祉事務所総務企画課総務担当 主査 総務部人事課 厚生担当主査(地共済派遣)、給与班(担当) 主査・副主任兼班長 産業経済労働部商工業振興課企業誘致班 副主任 人事委員会総務課審査班 副主任兼班長、同総務・審査班 主幹兼班長 企画振興部市町村課行政班 主幹兼班長 生活環境文化部県民文化政策課安全・安心まちづくり推進室調整・まちづくり・交通安全班 主幹兼班長 生活環境部県民文化政策課文化振興班 主幹兼班長 出納局総務事務センター調整・旅費・給与班 主幹兼班長 出納局総務事務センター センター長 健康環境センター企画管理室企画情報班・総務管理班 専門員(再任用) (公社)秋田県農業公社農業振興部担い手育成課 指導員	経営していない		認定を受けていない	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由) 私は、秋田県庁に入庁以来、9年間土地改良関係業務に従事してきました。また、(公社)秋田県農業公社では、県研修機関・市町村及びJ A研修施設の研修生に対し、生活支援等の業務に従事してきました。 研修生や研修終了後の就農者との面談等を通じて就農作りに適した農地の確保の困難性、農業用機械・施設の高騰化、就農後の技術支援など種々の課題を目の当たりにし、研修生等の取り巻く環境は非常に厳しいものがあると感じていました。 今回、農業委員の募集記事を見て、これまでの経験を踏まえ、自分でも何らかの手伝いができるのではないかと思います、応募することとしました。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 就業者の高齢化や人口減少を背景とした担い手不足、遊休農地の増加等による農地の荒廃、生産資材等の高騰や自然災害の激甚化など農業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあり、秋田市では、「将来にわたり持続可能な農林水産業」の実現を目指し豊かな食と農を次世代へと着実に引き継ぐため、新たに令和8年度から5年間の「第7次秋田市農林水産業 農村振興基本計画」を策定している。 秋田市の平成27年から令和6年までの10年間の新規就農者は、184名(独立・自営就農者49名・親元就農者16名・雇用就農者119名)で、また、秋田市園芸振興センターの新規就農研修修了者は、50名(独立・自営就農者38名・雇用就農者12名)となっている。 また、農業経営基盤強化促進法の改正施行に伴い、農地の貸借は農地中間管理機構に一元化され、人・農地プランから地域計画策定(7地区及び20個別プラン策定済)に変更となるなど農業委員会の業務内容も従来とは変わってきている。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 秋田県庁では、9年間、土地改良関係業務(事業認可、換地、財産譲与等)に従事したほか、(公社)秋田県農業公社農業振興部担い手育成課では、5年間、秋田市園芸振興センターを含む県研修機関・市町村及びJ A研修施設の研修生に係る就農準備資金等関係業務(資金交付及び研修状況確認面談、スタンバイ農地事業の情報提供、就農後の補助制度の説明、就農後の就農状況報告の確認・チェック、現地確認等)に従事するとともに農地管理部と連携し研修生に対し農地の確保等を側面から支援しました。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動) 町内会の班長以外に特に地域における活動はありません。 昨年、赤十字ベシクライフサポーターの資格取得及び応急手当WEB講習(上級救急講習編)を受講修了したので、今後、上位の資格を取得の上、防災関係のボランティアをしたいと考えています。</p>									

番号 9

氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況		認定農業者か否かの別	農地利用最適化推進委員への応募
				年月	職名・役職・委員名等	営農類型	経営規模		
高橋 長寿	男	75	農業	H15～H27 H28～現在 R2～現在 R6～現在	秋田市農業協同組合理事 株式会社寿牧場代表取締役 秋田県家畜商業協同組合副理事長 株式会社夢ファーム代表取締役	稲作 黒毛和種	32ha 約600頭	認定を受けている	応募していない
応募理由等									
<p>(応募理由) 圃場整備に連動し、地域農業の担い手として農地の集積・集約化を行い、法人を設立しその代表として先駆的に経営を行っている。これは他の農業経営の指針ともなり、また与える影響は多大なものがあり、農業委員として指導的役割を發揮すべき人材と考 え応募するものです。</p> <p>(農業情勢や本市農業への認識・理解度) 本市農業は稲作を中心とするものであるが、畜産や高収益作物の栽培等多角的経営も重要となる。特に畜産と連携した有機物の 投入活用は将来性が見込まれる農業と考えておりそれを実践している。</p> <p>(農業委員の活動に役立つ知識・経験) 農協理事 4 期12年務め地域農業の現状・実態を把握している。また同時にその抱える課題についても適格に私見を有しており知 識・経験は十分である。 また、それらの活動が高く評価され、平成11年農林水産大臣賞受賞、平成12年には秋田県農業指導士として稲作、和牛部門で認 定された。 なお、全国和牛能力共進会において全国第 2 位にランクされ県農業発展に多大に寄与している。</p> <p>(地域における活動など、これまでの活動) 様々な知見・経験に基づいた講演会を各地において実施し、多くの農業者へそのノウハウ等を披歴し地域農業の発展に寄与して いる。 今後は、有機活用農業の推進に尽力することとしている。</p>									